

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成30年 1月

1 東京都中央卸売市場（平成29年1～12月）の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は199.4万tで、前年比2%増、金額は5,701億円で前年比3%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は23.6万tで、前年比3%増、金額は602億円で前年比3%減となった。
(金額の内訳は、野菜511億円、果実90億円。前年同期比で野菜3%減、果実1%増、平年同期比で野菜13%増、果実7%増)
→金額が【増加】した品目（前年対比）：はくさい(112%)、にら(105%)、日本なし類(107%)、こごますいか(109%)
→金額が【減少】した品目（前年対比）：レタス類(76%)、キャベツ類(79%)、きゅうり(81%)、みず菜(87%)
- ③ 茨城県の1～12月計の青果物入荷量は前年比104%(シェア11.9%)、取扱金額は同112%(シェア10.6%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1～12月計)		
	1～12月計	年間計	年間比	1～12月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森
数量	H29	1,994,086		236,414	←シェア(11.9%)		10.9%	11.6%	5.6%
	H28	1,956,079	1,956,079	229,650	229,650	100.0	11.5%	11.2%	5.6%
	(前年比)	102		103	シェア(11.7%)				
	平年値※	2,013,667	2,013,667	226,294	226,294	100.0			
	(平年比)	99		104	シェア(11.2%)				
金額	H29	570,141		60,168	←シェア(10.6%)		8.0%	5.9%	5.6%
	H28	586,489	586,489	61,743	61,743	100.0	8.0%	6.4%	6.0%
	(前年比)	97		97	シェア(10.5%)				
	平年値※	546,790	528,369	53,617	53,617	100.0			
	(平年比)	104		112	シェア(9.8%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24～28年の5ヵ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》

平成28年実績
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)
北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)

2 東京都中央卸売市場（平成29年12月単月）の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約2万5千トン(108%)、単価は240円(125%)、金額は約61億円(136%)

果実類の入荷量は約260トン(88%)、単価は1845円(111%)、金額は約4.8億円(98%)

※前年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成24～28年同月の5ヵ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	はくさい	15,569	110	114	111	104	127	196	193	1,616,511	139	222
	れんこん	1,303	117	97	97	516	86	108	108	671,677	101	105
	みず菜	487	87	91	84	724	172	143	143	352,783	150	130
	こまつな	462	96	125	90	754	193	204	180	348,240	185	255
	野菜類計	25,468	108	109	92	240	125	139	127	6,115,881	136	151
果実	いちご類	230	92	86	92	2,040	107	120	117	468,511	99	104
	果実類計	260	88	85	94	1,845	111	122	122	479,420	98	103

(野菜)

- ・ はくさい 茨城県産はくさいは、10月下旬の曇雨天、低温により根張りが弱く例年より小玉傾向であったものの、作付け面積増や、年末需要に向けた集中出荷により、入荷量は前年比110%、平年比114%と多く、市場全体でも本県産入荷量が多かったことから前年比111%と多かった。レタス、軟弱野菜等の入荷不足により葉菜類全体的に単価が高騰した影響や、連続した低温や年末需要の影響による需要増から、相場は高く維持され、茨城県産は前年比127%、平年比196%、金額は前年比139%、平年比222%と非常に高かった。
- ・ れんこん 茨城県産れんこんは、定植時の低温や8月の曇雨天の影響により分枝数や肥大が抑制され、平年と比べ作柄は劣るものの、不良であった前年よりは回復して、入荷量は前年比117%、平年比97%、市場全体でも前年比97%であった。単価は月末に向けて上げ基調となり、入荷不足により高騰した前年は下回ったものの、茨城県産は前年比86%、平年比108%と堅調、金額は前年比101%、平年比105%であった。
- ・ みず菜 茨城県産みず菜は、10月下旬の曇雨天による日照不足、11月以降の低温の影響により、生育が遅れ、軟弱徒長傾向であったことから入荷量は前年比87%、平年比91%と少なく、近在産地である群馬、埼玉からの入荷量も少なかったため市場全体でも前年比84%と少なかった。入荷減により単価は高く、茨城県産は前年比172%、平年比143%と非常に高く、金額は前年比150%、平年比130%であった。
- ・ こまつな 茨城県産こまつなは、10月下旬の曇雨天、11月以降の低温により生育が遅れ気味であったものの、作付け面積増加の影響等により、入荷量は前年比96%、平年比125%と平年を上回った。市場全体では、埼玉(前年比87%)等の近在産地からの入荷量が少なく、平年比90%であった。入荷減により相場は高騰し、茨城県産は前年比193%、平年比204%、金額は前年比185%、平年比255%であった。

(果実類)

- ・ いちご類 茨城県産いちご類は、花芽分化は順調だったものの、10月下旬の日照不足、11月以降の低温の影響から頂果房の着果、肥大が全体的に遅れ、入荷量は前年比92%、平年比86%と少なかった。市場全体では、栃木県から前年並(前年比101%)の入荷量があったことから、前年比92%であった。品薄感に加えクリスマス需要も相まり、月末にかけて相場は上げ基調となり、茨城県産は前年比107%、平年比120%、金額は前年比99%、平年比104%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出